



場所をつなぐ、 人をつなぐ、 未来へつなぐ

私たちは、橋梁・トンネル等の道路構造物の
点検や診断を通して、戦略的・効率的な
道路メンテナンスを推進しています。



国土交通省 近畿地方整備局 近畿道路メンテナンスセンター

！ 近畿道路メンテナンスセンターとは

高度経済成長期に集中的に整備された社会資本ストックは、建設後50年を経過し今後一斉に老朽化が進むことが予想されています。また、2012年12月に発生した「笹子トンネル天井板崩落事故」を契機に、すべての橋梁・トンネル等の道路構造物を5年に1回、近接目視点検するという定期点検が義務付けられました。2014～2018年で1巡目、2019年～2023年で2巡目の法定点検が完了、2024年からは3巡目の点検を開始し、定期的なメンテナンスサイクルを構築しているところです。

そしてこれらの点検データを分析し、老朽化していく橋梁等の道路インフラの戦略的・効率的なメンテナンスを推進していくための組織として、「近畿道路メンテナンスセンター」が設置されました。



！ 道路メンテナンスの現状

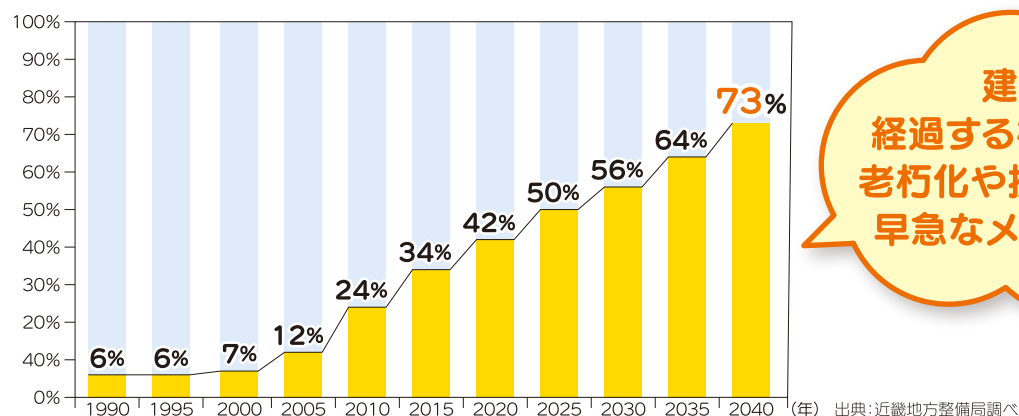
老朽化していく道路構造物を長く安全に活用するためには、適切なメンテナンスが欠かせません。

近畿地方整備局管内(福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県)にある約10万橋の道路橋のうち、建設後50年を越えた道路橋の割合は、2025年には約半数となり、さらに、2040年には約73%へと急激に増加します。



！ データで見る道路メンテナンス

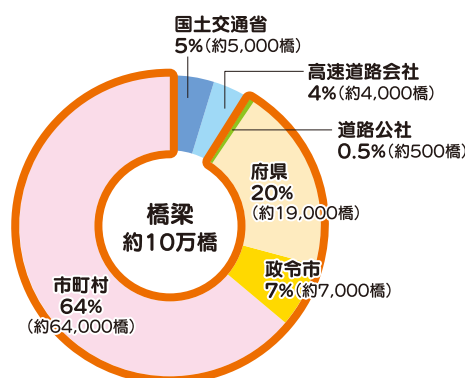
建設後50年経過する橋梁の割合 (近畿地方整備局管内)



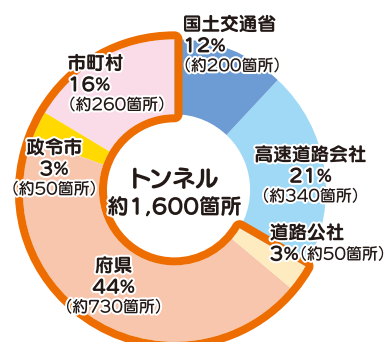
建設後50年を経過する構造物は今後急増。老朽化や損傷が進行しており、早急なメンテナンスが急務。

管理者別橋梁・トンネル数

道路橋の約9割、トンネルの約7割が地方公共団体の管理。



地方公共団体管理 約9万橋



地方公共団体管理 約1,100箇所

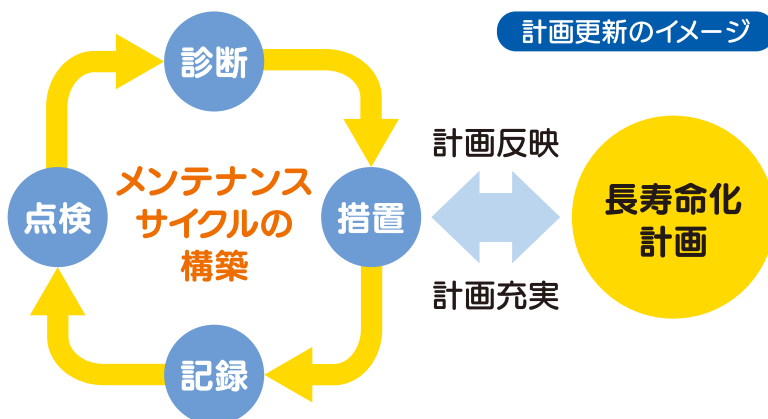
出典: 近畿地方整備局調べ

！ 近畿道路メンテナンスセンターの取組

老朽化対策

直轄国道の橋梁・トンネル等施設の点検・診断、修繕計画の立案や、各施設のデータベース管理・分析を行い、メンテナンスサイクルの構築を進めています。

点検においては、点検支援技術など新技術を活用し、点検の効率化や高度化を図っています。



橋梁点検車による点検



トンネル打音点検



ドローンによる点検

自治体支援

地方自治体の技術相談や現地調査、職員向け講習会等により技術支援を実施しています。

また、緊急的かつ高度な技術力を要する施設の技術的な助言が必要な場合は、専門の技術職員で構成する「道路メンテナンス技術集団」を派遣して「直轄診断」を行います。



